



友垣よ

練馬区立石神井西中学校だより
令和五年十月十日 第六号
校長 井上 貴 推

生成AI、学校でどう使う…？

十月も半ばになりました。東京オリンピック2020以前までは「体育の日」と呼ばれていた祝日は、現在では「スポーツの日」となりました。昨日は「スポーツの秋」というよりは「読書の秋」にふけりたい雨の一日となりました。スポーツ、読書に限らず、食欲の秋ともいわれますが、皆さんはどんな一日を過ごしましたか。

さて、私はなんと言っても「読書の秋」を満喫し、様々な本を読んでいるのですが、その中で、これからの私たちの生活にきつと欠かせない存在になるであろう「生成AI」に関する本が印象的でした。チャットGPTに代表される「生成AI」、これをどうやって「有効に」学校に取り入れていけばいいのか…読書を通して考えました。

1 学校と生成AIの関係

生成AIとは、人間が作ったデータやルールに基づいて、新しいデータやルールを作り出すことができる人工知能のことです。生成AIは、人間の創造力や表現力を補ったり、広げたりすることができる技術です。学校では、様々な教科や活動を通して、知識や思考力等を身に付けることが大切です。そこで生成AIは、この目的を達成するために、有用なツールになることができる可能性を秘めています。

2 生成AIを活用する場面を考えてみた

生成AIを学校で活用する代表的な二つの例を挙げてみます。

【学習支援】皆さんは、学習や課題やプレゼンテーション等を作成する場面があるでしょう。例えば、知りたいことや調べたいことを質問すると、それに関する情報や回答や参考文献を生成してくれます。また、自分が書いたり話したりしたい内容や形式や目的などを上手に入

力（「プロンプト」と言います。これが意外と難しい！）すると、それに沿った文章や音声やスライドなどを生成できます。これらは、学習効果や表現力を向上させてくれ、きつと役に立ちますよね。

【創造活動】生徒の皆さんだけでなく先生も利用できます。例えば、教材として作りたいもののテーマやジャンルなどの条件を入力（何度も言いますが、ここが難しい！）すると、それに応じた小説や詩や絵画や音楽などの芸術作品を生成できるのです。

また、自分が考えたアイデアやプロトタイプ（原型）や仕様等を入力すると、それに基づいたゲームやアプリやロボットなどの技術作品を生成できます。これらの作品によって創造力や感性が刺激され、更なる創作意欲を掻き立ててくれるに違いありません！…きつと。

3 生成AIのメリットとデメリット…ここが肝腎！

これまで述べてきたように、生成AIは学校で学習支援や創造活動などに活用することができる技術です。多くのメリットをもたらしますが、同時にいくつかのデメリットもあります。例えば、

【メリット】生成AIは、生徒の皆さんの時間や労力を節約したり、質や量を向上させてくれます。また、知識や思考力等を補ったり、広げたりも十分にしてくれます。さらに、皆さんの興味や好奇心、モチベーションを高めることもできそうですね。一方で、

【デメリット】皆さんの自主性や責任感の低下を招いたり、生成AIに頼りっぱなしになってしまったりする可能性があります。また、自分で苦労して情報を集めたり、精選したりする機会が少ないので、個性やオリジナリティを失わせてしまう恐れもあります。

生成AIは、学校で有用なツールになることができる素晴らしい技術ですが、同時に様々な問題も引き起こす可能性があります。メリットとデメリットを理解し、適切に利用することが重要です。生成AIを上手に利用して、より良い学びを実現していく方法を確立していきたい…と改めて考えた「読書の秋」です。